

新時代のスタイル(リモート会議)を 各種会議で活用!

【県内会議において】

八月二十三日(土) 令和二年度第二回会長・事務局長会を開催した。新型コロナウイルス感染症拡大リスクを考慮して、Zoomによるリモート会議を行った。

北村頭吾委員長の挨拶の後、八月までの経過報告ならびに、全日教連執行委員会協議した内容や決定事項などについて報告した。

その後、署名活動に関することや九月以降の行事について、また県知事要望や県議会議長要望、県教委予算要望の内容などについて協議した。



【県外会議において】

九月八日(火) 十四時より、第十八期第五回教育問題審議委員会がオンラインで開催された。香川県からは、北村頭吾香川県教育文化研究所理事(日本教育文化研究所副理事長・香教連委員長)が出席した。

はじめに第十八期研究部会の進捗状況が説明された。

次に、教文研教育ウェビナーの開催決定を、全日教連全国調査の中間結果についての報告があった。

その後、出席されている審議委員の方々や副理事長で

① コロナ時代のオンライン授業について

② 読解力の育成について

③ コロナ禍における命を守る教育について協議した。



日本教育文化研究所は、九月二十六日(土)に、第十八期第五回教育問題審議委員会研究部会をオンラインにおいて開催した。香川県からは黒川幸宣先生(香教連事務局次長)が参加した。

今回は、機関紙「教育創造」に掲載する研究紀要の原稿について明石所長より、研究部員に対して、具体的な助言が行われた。

その後、Zoomのブレイクアウトルーム機能を活用し、四つのグループに分かれて各研究部員の原稿についてグループ協議が行われた。

明石所長からは、それぞれの紀要原稿の主張点や工夫、思いがはつきりしており若い会員さんの参考となるものが仕上がってきたとの講評をいただき、次回は出来上がった成果の伝え方について協議してほしいと述べられた。

最後に、研究紀要の進捗状況も良好なことから、次回開催を十月二十四日(土)に早めて開催することも確認した。



中堅教員研修会の御案内

香川県教育文化研究所主催の中堅教員研修会を、下記の日程で開催を予定しております。

○日程 十一月十四日(土) 十八時〜二十時 (受付十七時三十分)

○場所 香川県教育会館三階 会議室

○持参物
・香川県教育関係職員事務必携
・教育小六法

○申込先 香川県教育文化研究所事務局
電話 〇八七―八三三―八四八〇
FAX 〇八七―八三五―二七二三

先生のための マナーズプランニングコラム

「介護について」

ファイナンシャルプランナーからのお便り

今回は介護について、ファイナンシャルプランナーとしてお伝えします。

筆者は今年五十七才ですが、同級生や同年代の方との話題に「親の介護」が出る事が多くなりました。

「親のものが忘れがひどくなってきた。」
「うちは、介護施設に入れた」とたんに、認知症が進んだ。
「父が母の面倒を看てるけど、もう限界に近い。」

それそれぞれの家庭にはそれぞれの事情があり、問題のレベルも様々です。私の実母は認知症になり、約五年間有料老人ホームにお世話になって、先日他界しました。亡くなる前約二年間は、要介護5でした。会話はむろん、意思の疎通もほとんどできない状態でした。(コロナの影響で、面会もままなりませんでした。)

この母の経験からファイナンシャルプランナーとして言えることは、当り前ですが、「介護にはお金が必要」ということです。このことは、「お金の準備をしておけば、介護のかなりの問題は解決する」と言いかえることができます。

「老々介護」、「介護離職」、「介護難民」... 全ての問題をお金だけで解決することはできません。人がきつくと準備をしておくことは、私達一人一人が将来お世話をしてくれるであろう人達(配偶者や子供など)のために、しっかりと考えておかなければいけないことだと、母の経験から確信しました。

「公的介護保険でどこまでカバーされるのか、自分にはどこでどのような介護を受けたいのか、そのためにはいくらの必要なのか、それをどのように準備しておくのか」、「一度ファイナンシャルプランナー等の専門家と一緒に考えてみてはいかがでしょうか。」



F P ラボ代表 伊藤祐一